

くらしとバイオプラザ21企画講座

今年はオンラインで開催
生命と科学について学ぶコミュニケーションの場
“サイエンスカフェみたか”

賛助会員のNPO法人くらしとバイオプラザ21との連携による人気講座サイエンス＝科学について普段から疑問に思っていることや自分のアイデアを、ゲストや受講者同士で楽しく語り合う場を提供しています。

上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン講座として開催し、会議アプリを駆使して双方向の質疑を重視しながら実施しました。

【オンライン講座の一例】

7月 怖いだけじゃない？ 最凶生物スズメバチの魅力！

8月 統計でウソをつく方法—新型コロナウイルスなど身近な事例によるデータサイエンス入門

9月 親子で科学を楽しもう—季節を感じる本や遊び

電気学会 寄付講座

未来を拓くプラズマパワー
—人工太陽の開発から宇宙探査まで

賛助会員である（一社）電気学会との連携により講座を開催しました。

電気学会は、1888年に創設された学者・技術者で構成される歴史ある学術法人です。

昨年度に続き、各学期1回、年4回の企画講座を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、上半期は4月の開催を見送り、9月の1回のみ開催しました。

講師がさまざまな実験器具を持ち込み、講義と実験を通してプラズマをわかりやすく解説するなど、実地開催の長所が生かされた講座となりました。



ビューティフルエイジング協会 寄付講座

人生100年時代を考える講座
マネープランや相続法改正など

賛助会員の（一社）ビューティフルエイジング協会と連携し、人生100年時代の社会で、充実し安心して生活するために、早い段階から「学び方」「働き方」「生き方」などの人生設計を考えていただく機会を提供する講座を開催しました。

定員を20人に減らし受講者の間隔を確保するなど、新型コロナウイルス感染症への対応を図りながら実施しました。

科学宅配塾 企画講座

科学の最新動向をわかりやすく
“もっと科学に親しもう！”

NPO法人科学宅配塾は、理化学研究所のOBを中心に組織された団体で、最先端の科学や技術の普及活動を行っています。毎月第3木曜日の人気講座ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、上半期は4・5月の開催を中止とし、6・7月は通常の定員50名を20名に減らし、会場とオンラインを併用して開催しました。

連続講座“中央線沿線の文学風景”
～村上春樹から高村薫まで～
野川、国分寺崖線（ハケ）を辿る

元三鷹市山本有三記念館長の矢野勝巳氏、賛助会員のNPO法人グリーンネックレス「はげの学校」代表の野口由紀子氏や、土肥英生氏を講師に迎え開催した新規講座です。

三鷹をはじめとしたJR中央線沿線には、多くの文学者が居住しそこから珠玉の作品を発表し続け、現代文学に大きな影響を与えています。文学者たちが、中央線沿線の風景をどのように描いたのか、沿線地域への居住の契機や関係はどのようなものか、文学作品を読む新たな楽しみと地域の魅力を再発見することを目的として開催しました。

座学のみコースと、実際に散歩を含むコースを設けて実施しました。



がん哲学外来ピア・カフェ
at 三鷹ネットワーク大学

昨年度（令和元年度）の「民学産公」協働研究の採択事業である「インタラクティブ・フォーカシングを活用した『がん哲学外来』が精神的健康に及ぼす効果の検討」（代表者 酒井久実代）の一環として、酒井氏が主宰するインタラクティブ・フォーカシング研究会ピアと共に講座を実施しました。

第3回には、「がん哲学外来」とは何か、「メディカルカフェ」とは何か、その創始者である樋野興夫先生を招き、がん哲学外来の概要と思想について語っていただきました。講演後には、講演の感想や近況を自由に語り合うピア・カフェ（仲間同士の語り合い）の時間を設けました。

起業支援（ビジネス・インキュベート）の取組
“みたか身の丈起業チャレンジ”
～独立・複業はじめての一步～

2005年から31回実施してきた連続講座「三鷹身の丈起業塾～SOHOベンチャーカレッジ」は、前田正隆塾長の勇退に伴い、令和2（2020）年度から講座の内容をリニューアルすることにしました。

新しい講座は、「独立」や「複業（副業）」をキーワードに、ワーキングスペース経営、モノづくり、介護ビジネス等など、今の時代に合った業種を盛り込み、アクティブに活動している起業家のリアルな話を聞いて、新型コロナウイルス感染拡大への対応と経済活動を両立する「新たな日常」の時代の起業を考える内容となっています。賛助会員のNPO法人グレースケア機構、スキルノート（芦沢壮一氏）も登壇しました。

12回の連続講座（オンライン講座5回、教室7回）で構成され、講義、ビジネスプラン演習、経営拠点の視察等を実施。受講者同士の交流も深めます。



大正大学公共政策学科によるフィールドワーク

新会員の大正大学の公共政策学科の学生によるフィールドワーク実習が9月～11月に首都圏で8つの自治体を対象に実施されました。三鷹市では、市と三鷹ネットワーク大学が連携し、市政に関するレクチャーや、市民参加と協働に関する関係者へのインタビュー調査の支援を行いました。



国立天文台 企画講座

“アストロノミー・パブ”

アストロノミー・パブは、市民と研究者との相互コミュニケーションを目的としたサイエンス・カフェの天文版です。新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、4・5月は開催を見送りましたが、6月からは、“おうちでアストロノミー・パブ”と称して、オンラインにより講座を開催しています。第2部は、2つのグループに分かれ、ゲストやホストと参加者でコミュニケーションを楽しんでいただけます。

学生によるミタカ・ミライ
研究アワード2020を創設



三鷹ネットワーク大学開設15周年記念事業として、今年度から始まった「学生によるミタカ・ミライ研究アワード」。学生たちが授業やゼミ活動、その他課外活動などで自ら取り組んだ、未来の地域社会やまちづくりに関する研究や実践活動の成果を三鷹市長に向けて提案発表する場です。初回ですが、会員大学から多数のエントリーをいただきました。提案発表会は2021年2月27日（土）、三鷹産業プラザで。その後、三鷹市長、副市長、教育長等との懇談や三鷹市長賞の贈呈を予定しています。



※コロナにより予定を変更する場合があります

まちづくり研究員（新規事業）



公募による33の個人とグループを「まちづくり研究員」に委嘱しました。地域ケア・観光・都市農業・市民参加など多様なテーマの研究を近隣大学の協力を得ながらサポートしています。コロナ禍において、研究に必要な研修や研究員同士で討議する月2回の「まちづくりラボ」などをオンラインで実施しました。年末には中間報告会を予定、来年3月末が論文の提出期限です。

研究員 研修

- 5月30日 「まちづくり研究員の醍醐味と心得」
西尾隆（国際基督教大学教授）
- 6月19日 「論文を書くということ」
進邦徹夫（杏林大学教授）
- 6月23日 「アカデミック・ライティング」
小澤伊久美（国際基督教大学上級准教授）
- 7月9日 「社会調査法の基礎」
小林盾（成蹊大学教授）
- 7月17日 「三鷹市のデータについて」
佐々木健（三鷹市企画経営課）



◆論文コースアドバイザー：進邦徹夫（杏林大学教授）／西尾隆（国際基督教大学教授）／石生義人（国際基督教大学教授）／森木美恵（国際基督教大学上級准教授）／小林盾（成蹊大学教授）／金子和夫（ルーテル学院大学教授）

◆まちづくり提案コースアドバイザー：大石田久宗（三鷹市社会福祉事業団理事長）／齊藤大輔（三鷹市企画部企画経営課長）／佐藤証（電気通信大学教授）、吉田純夫（㈱まちづくり三鷹社長）

2020年度「民学産公」協働研究事業

協働研究事業は、民学産公の連携による知的資源を活用し、研究成果が社会・地域に貢献することで市民生活が豊かになることを目的としています。令和2年度は以下の5件が採択され、現在、実証実験等を行っています。3月には一般公開により成果報告会を開催します。ぜひご参加ください！

成果報告会 3月5日（金） 詳細はHPをご覧ください

Aコース 助成の上限：50万円、助成率：50%

- 「みたか太陽系ウォークに関するクイズの開発（プリント原稿&Web）」 エム・ティ・プランニング株式会社
- 「TAKA-1からTOKYO-1への実証研究」 法政大学地域研究センター（松本敦則〔センター長〕）
- 「地元で働きたい人のためのスキルアップ情報サイト」 三鷹ICT事業者協会（Cloudy knotおよびCode for Mitaka / Musashino）

Bコース 助成の上限：15万円、助成率：100%

- 『「まいど（MAIDO）」プロジェクト』 境交通株式会社
- 「はげのメディアラボ・音声コンテンツ研究事業」 (NPO)グリーンネックレス